

(2面から続く)

四時間の往診可能な体制が確保されていること。さらに、他の保険医療機関との連携によつて、在宅療養の患者の救急入院を受け入れる体制を確保していること。その他、何項目かございますが、ご指摘のとおり市内では五つの診療所が届け出をしております。

山本議員(政和会)

障害者自立支援法地域作業所について

本市には七カ所の障害者地域作業所があり、一般就労が困難な百三名の方が、働く場、生きがいの場として通所しております。この作業所が障害者自立支援法施行に伴い、大きく揺れております。県主導で始められた地域作業所が県の方針により、数年の経過措置を設けた後に市の責任で行うことになり、「地域生活支援センター」に移行する方針が打ち出されています。市の事業となりますと、十名規模の作業所の運営費六百万円が市の負担となり、上乗せで「機能強化事業」として、重度障害者の受け入れなどを行う場合は百五十万円が加算され、国二分の一、県、市がそれぞれ四分の一負担となり、合わせて七百五十万円となります。現在の運営費が県、市それぞれ二分の一の約一千万円の補助金で運営されておりますので、大幅な削減となります。今でもスタッフの人員費などギリギリの予算で行っている状況にあって、これでは廃止せざるを得ない状況に追い込まれる心配があります。加え

障害者地域作業所の支援を
自立支援法

り病院はなく、診療の合間に訪問等を行っているケースが非常に多いなどなかなか難しい状況もございます。診療所の公表については、近隣市でも例がなく、公表したことによるさまざまな問題についても懸念があります。それぞれについて、今後の国の動向等を十分注視していきたいと思っております。利用者の一割負担が生じます。所得によって負担は異なりますが、上限額三万円余の負担が生じた場合、工賃が三千元から五千円では作業所に通えなくなる心配が発生します。いままでどおり県単独事業としての助成金の確保と利用者の負担がないような措置をお願いしたい。市長 ご指摘のように、県は自立支援法の法内施設に位置づける方針を進めておりますが、この事業は県主導で始まった事業であり、市に肩代わりの方向は残念であります。いままでどおりの助成金の確保について、強力に働きかけていきたい。また、一割負担については、現在、国で見直しが検討されておりですので、その動向を見極めていきたい。

佐藤議員(政和会)

教育行政について

戊辰戦争に敗れた長岡藩の人々はその日の食事にも事欠くほどの窮乏を極めていたが、支藩三根山藩から見舞いとして送られてきた米百俵を大参事の小林虎三郎は、皆に分け与えずに売り、そのお金で「国漢学校」を建てて、これを決めました。その事を聞きつけた三人の藩士は、刀を持って小林の家に押しかけ、

り病院はなく、診療の合間に訪問等を行っているケースが非常に多いなどなかなか難しい状況もございます。

長谷川議員(政和会)

教育現場における社会現況と母子関係について

日本は平和で自由な国です。経済的にも豊かで、子育てに對するハード面では申し分のない国だと思えますが、平成十二年の文部科学省国際比較調査で、日本の家族は世界の国々と比較して心理的な崩壊がより進んでいるというショッキングなデータが報告されています。これだけ環境条件が整っているにもかかわらず子供の心は傷ついています。子供たちは自分の傷ついた心の訴えや叫びを非行や不登校などの問題行動としてあらわしているのだと思えます。

子供への変わらぬ愛を

母親や先生を始めその周囲にいる人たちは、子供たちの問題行動に潜む原因が理解できずに、あるいは気づかないままに子供を叱り、励まし、悩み、苦しんでいると思います。心理治療やカウンセリングによって母子関係を改善すれば子供の問題行動は返答次第では小林を切る覚悟でしたが、学識と胆力の備わった小林は、「米百俵というが、一人当たりにすれば四合か五合にしかならず、後には何も残らない。しかし、この百俵を元に学校を建てれば、戦後の長岡を立て直すことができる。次の時代に我々のような苦しみを引き継ぐ訳にはいかない。」と説得し、三人の藩士は納得しました。こうして日本の歴史や国学なども学べ、身分に捉われずに、誰でもが入学できる長岡の「国

「米百俵」の精神で教育費確保を

直るといふ事例が数多くあるというのを児童相談所等において聞くことができます。子供と母親の関係は何より大きく、強いきずであること、すべての子供はだれよりも自分の母親が大好きで、その母親が一番愛されたいと願っています。時代はどう変わろうとも変えてはならない、また変わらぬ普遍的な母子関係を忘れてはいけません。時代は変わらぬ、結婚、度原点に返り、「結婚、家庭、親、学校とはそれぞれ何か」を考える必要があると思えます。その上で子供に接することが大切と考えますがご所見を伺います。

教育長

子供たちの心の教育は、人格を形成していく上で重要な課題です。本市では豊かな心の育成を学校教育目標の重点主題と位置づけ、各学校で真剣に取り組んでいます。母子関係でも特に幼児期に愛情をたくさん注いでいただき、子供に寄り添ってほしいと思えます。

漢学校」ができました。

厳しい財政状況だからこで、教育は最も大切で、特に義務教育費だけは確保していくという姿勢が、必要だと考えます。現在、市内のある中学校では「この窓は開けると落ちます。」と書かれている窓が

救急医療体制の充実を

大矢議員(政和会)

救急医療体制について

本市の一次救急医療体制として、休日急患センター、在宅当番医制、二次救急医療体制として病院群輪番制を実施し、さらに、平成十五年四月から綾瀬市、海老名市、本市が共同で小児科救急医療体制を実施したことにより、救急医療の充実が図られてきました。救急医療体制の基本条件

どうなる米軍再編問題

安斉議員(自民党明政会)

市長の政治姿勢について

平成十八年十一月十五日発行の座間市議会だよりに掲載した私の記事を見て、多くの市民から励ましの電話やメールをいただきました。そのうち的一件をご紹介します。「議会だよりを読んで孤立する座間市を懸念しましたが、安斉議員の発言内容について賛成です。米軍再編に反対しているのは安斉議員の指摘どおり座間市だけです。岩国の市長は見事に問題を解決しました。自民党外交部長の山本

といたしまして、救急時に患者が混乱することなく救急医療を受け、救急隊が迅速に患者を医療機関に搬送できる体制づくり、地域住民が利用しやすいこと等、地域の実情に即したものであることや社会構造、疾病構造の変化に対応できる救急医療体制の確立が挙げられております。

本市におきましては、立野台にあります座間中央病院が

連絡協議会の活動報告

国が責任を持って基地恒久化の解消を示すよう求めてきたとの報告があり、市長の発言の中にも、解消が実現できるような表現がありました。防衛庁が連絡協議会の意向を全面的に受け入れたのかどうか説明を求めます。

市長 まずは正確を期したいと思っております。九月議会において、本市は孤立してないという強弁は、私として答弁していませんし、岩国につ

駅周辺テナントリーディング導入を活性化

小野議員(公明党)

地域経済活性化推進方策について

ライフスタイルの変化、消費者ニーズ、市場のあり方への影響など、地域商業のあり方にも新しい変化の時代に即応した対応が求められています。中心市街地は、市町村の中心としての役割を果たしているとともに、地域の発展にとって、まちの活力や個性を代表する顔であります。

座間駅前、相武台前駅等、

平成十九年七月をもって海老名市のかしわ台駅近くに移転します。今後、救急患者の受け入れ態勢にも影響が出るのではないかと思います。市としてはどのようなお考えをお持ちかお聞きします。

市長 座間中央病院の海老名市への移転に伴う二次救急医療体制の影響については、広域の二次救急は、現在、本市の五病院、綾瀬市の三病院の八病院による輪番体制で実施されており、座間中央病院の移転に加え、ひばりが丘病院の建て替え等も計画

いても合意はしていないと認識しております。

山本議員の発言については、連絡協議会がこれまで取り組んできた経過や審理、そういうものを知らずにお話しただくことは非常に残念です。十倍以上の交付金をとってという考え方は、理解に苦しむところですし、基地恒久化解消が実現できるような表現もしていません。協議の継続と方策を示すようには重ねて要請してきています。

等々積極的に検討し、ふさわしい業種、業態を選んでいくことが必要です。そのためには、待つよりもテナントは動きません。こちらからアプローチをかける積極的な誘致活動が、活性化事業成功の鍵となります。空き店舗や共同店舗に新しいテナントを探して誘致するテナントリーディングは、新たな息吹をまちに吹き込み商業地を活性化させることができます。待つてはいるのではなく、出店してほしいテナントに対して、こちらから積極的にアプローチ

活性化を促し、消費者である市民に足を運んでもらうには、いま以上にワンストップ性や利便性、特徴あるコンセプト